

(令和2年度 事業方針)

65歳以上の高齢者が総人口に占める割合が21%を超えると超高齢社会と呼ばれますが、令和元年の総務省推計によると65歳以上の高齢者は総人口の28.4%で、3,588万人に達しています。大都市部、とりわけ一人暮らしの高齢者や高齢者夫婦世帯の割合が高い大阪市においては、地域の繋がりが希薄になり、認知症高齢者の増加が見込まれるなど、高齢者を取り巻く環境は厳しい状況にあります。

このような状況において、高齢者がお互いを支え合い励まし合いながら豊かで活力のある長寿社会を築いていくためには、高齢者自らが問題意識を高め、生きがいと健康づくりに努めるとともに、これまでに培ってきた知識や経験を生かし、積極的に地域社会の中で役割を果たすことが極めて大切です。長寿社会を支える力として、私たち老人クラブの役割はとても重要なものとなっています。老人クラブが地域の高齢者を代表する組織として地域社会になくてはならない存在となるよう努め、誇りをもって友愛活動や奉仕活動を地域づくりの視点から一層の取り組みを進めてまいります。

その一方で、全国的な傾向でもある会員の減少、指導者の不足、財源不足などの課題を抱え、極めて厳しい状況にあります。

これらの課題に対応するためには、組織の基盤強化を期することが最も重要であり、全国老人クラブ連合会が提唱した「100万人会員増強運動」に呼応して、大阪市老人クラブ連合会においても平成26年度から会員増強に取り組んできましたが、会員の減少に歯止めがかからない状況が継続しています。これまでの取り組みに加え、老人クラブ創設の原点に立ち返り老人クラブの基盤である単位老人クラブの仲間づくり活動などを積極的に支援するとともに、女性部会、広報部会をはじめ各部会の活動を通じて人材の育成に取り組むことにより組織全体の活性化を図り、会員の減少に歯止めをかけ自主財源の確保に努めます。

老人クラブの柱である健康づくり活動は、今年度はグラウンド・ゴルフ大会・ペタンク大会を開催するほか、「高齢者の健康ウォーキング事業」を助成事業として継続実施するなど、高齢者の健康づくりを一層推進してまいります。

また、今後の老人クラブの発展の核となるリーダーの育成について、今年度も各種リーダー養成を推進し、引き続き、幅広い分野の人材育成を目指したリーダー養成に力を注ぐとともに、依然として被害が減らない特殊詐欺など高齢消費者被害防止にも取り組んでまいります。

以上の令和2年度事業方針をもとに、全老連が提唱している「老人クラブ21世紀プラン」に沿って、「健康・友愛・奉仕」の実現をめざして、下記のとおり

のメインテーマ、重点項目で活動を進めてまいります。

記

1 メインテーマ

「のぼそう！健康寿命、担おう！地域づくりを」

2 重点項目

- I 心とからだの健康づくりをすすめる
- II 高齢者が相互に支援する友愛活動をすすめる
- III 「きれいな地球をこどもたちへ」環境への取り組みをすすめる
- IV 生活と地域を豊かにする楽しいクラブ活動を広げる
- V はつらつとしたクラブづくりをすすめる
- VI クラブ発展の基盤強化をすすめる